

IV 家庭の教育力を高め、地域の教育力を生かす

基本施策	達成指標番号	達成指標	H20	H27実績	最終目標(H27)	進捗区分	担当所管	7年間を通じての考察等	
(8) 家庭の役割と機能を再確認するための方策推進	(再掲)	朝食を必ず食べる児童生徒の割合	(41の再掲)						[45]△「異なる学年の児童と遊ぶようになった参加児童の割合」について 放課後子ども教室事業の活動が、異なる学年の児童と遊ぶ機会の一つとなっている。しかし、当該事業がボランティアに頼った運営のため、プログラムの固定化傾向があり、全体として低学年が中心の活動となっており、大きな増加は見られなかった。
	42	子育てサロンが行う子育て相談への参加者数(延べ数)	2,298人	1,882人	3,200人	×	生涯学習振興課		
(9) 地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実	43	放課後子ども教室の年間延参加児童数【H22年度新規】	107,795人(H23)	88,572人	174,000人	×	生涯学習振興課	[47]○「学校・家庭・地域連携によるまちづくり推進事業への参加者数」について まちづくり推進事業が学校や地域に根付き、連携協力体制が構築されてきたと考えられる。 [48]◎「学校セーフティウォッチャーの登録者数」について 各学校において、地域の自治会や青少年育成委員会、PTA、保護者会などと連携を図り、参加を増やすため、学校広報の活用など、積極的な取り組みをしているため、協力は着実に増加している。今後は、登録者数だけでなく、実質的な活動状況を把握するしくみづくりについて検討していく。 [49]△「こども110番のいえ設置数」について 平成27年度は、子どもの数の減少、子どもが学校を卒業した家庭や育成委員を辞めた家庭が登録を辞めることで、新規登録数が伸び悩んだと考えられる。コンビニや店舗等へも依頼を行っている。 [50]◎「『青少年の日』つながりウィーク地域行事を実施する中学校区数」について 7年間順調に増加していった。また、継続的に行事を行うことで、地域に根付いてきている。各中学区には引き続き協力依頼を行っていく。 ※当初の最終目標は市内全中学校区数の55校区であったが、統合により54校区となったため目標値を修正した。	
	44	地域の大人に挨拶をしたり、話すようになったりした参加児童の割合【H22年度新規】	59.3%(H23)	54.4%	60%	×	生涯学習振興課		
	45	異なる学年の児童と遊ぶようになった参加児童の割合【H22年度新規】	40.2%(H23)	43.7%	45%	△	生涯学習振興課		
	46	公民館の小・中学生の学習者数(延べ数)	41,854人	33,019人	48,000人	×	生涯学習振興課		
	47	学校・家庭・地域連携によるまちづくり推進事業への参加者数(延べ数)	61,733人	94,698人	100,000人	○	指導課		
	48	学校セーフティウォッチャーの登録者数	16,000人	26,951人	25,200人	◎	学事課		
	49	こども110番のいえ設置数	10,080	10,665	12,000	△	健全育成課		
(10) ルールやマナー意識をはぐくむ交流・連携活動の推進	50	「青少年の日」つながりウィーク地域行事を実施する中学校区数	40校区	54校区	54校区	◎	健全育成課		